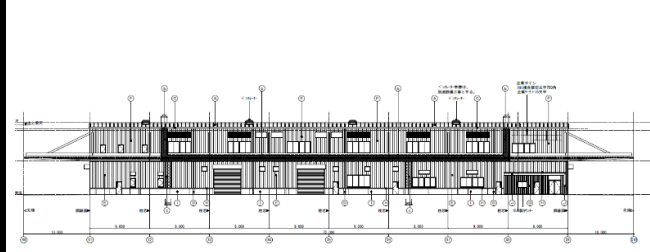


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)千代田工業(株) 豊明第3工場	階数	地上2階
建設地	愛知県豊明市栄町神田126番、他14	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	35人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2022年9月6日
敷地面積	15,514 m <sup>2</sup>	作成者	小原一級建築士事務所 山崎 准一
建築面積	5,490 m <sup>2</sup>	確認日	2022年9月7日
延床面積	9,090 m <sup>2</sup>	確認者	小原一級建築士事務所 山崎 准一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>49.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	49.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	49.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.3	
1 音環境														2.5	
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														0.4	
1 開口部遮音性能														1.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.3	
2.1 室温制御														0.3	
1 室温														0.5	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
各室ごとに系統が分かれており、冷暖房の選択を自由に変更可能														5.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														3.5	
3.1 昼光利用														0.2	
1 昼光率														0.3	
2 方位別開口														3.0	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														0.3	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														3.0	
熱線センサー付自動スイッチにて入り切りする照明を設置														5.0	
4 空気質環境														3.7	
4.1 発生源対策														0.2	
1 化学汚染物質														0.5	
建築材料はVOC規制対象外またはF☆☆☆☆のものを使用														4.0	
4.2 換気														0.3	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														0.2	
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	
2 喫煙の制御														3.0	
建物全体禁煙														5.0	
Q2 サービス性能														3.0	
1 機能性														2.8	
1.1 機能性・使いやすさ														0.4	
1 広さ・収納性														0.4	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														0.3	
1 広さ感・景観 (天井高)														0.3	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														2.0	
1.3 維持管理														0.3	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.5	
維持管理のための清掃道具置場や専用流しを設ける														4.0	
2 耐用性・信頼性														3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														0.4	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														0.3	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														5.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														2.0	
ビニルクロス貼(耐用年数20年)														0.09	
塩化ビニル管を採用														0.08	
2.4 信頼性														0.1	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														2.0	

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上です。	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.1	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	② 天井スペースの確保	-	4.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.39	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm0.85	3.0	4.5	0.02	-	-	-	4.5
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.27	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm0.70	3.0	4.0	0.42	-	-	-	4.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.28	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護			0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水		自動水栓や節水型便器を採用	3.0	1.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤	現場発泡となる断熱材は不使用	-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用しません。	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減		独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明の点滅・移動・着色等をしない	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)千代田工業(株)豊明第3工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12
			外構緑化:49.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1



## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)千代田工業(株) 豊町

計画上の配慮事項	
総合	外皮に十分な断熱性能を施して熱損失を抑制すると共に、高効率機器や節水型機器を採用し、敷地内温熱環境の向上や資源の保護に努めている。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避している。
Q2 サービス性能	給排水配管において更新必要間隔の長い配管を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を適度に設けてまちなみや景観に配慮している。
LR1 エネルギー	高効率設備や自動水栓を採用することで一次エネルギー消費量を削減し、環境負荷への配慮をしている。
LR2 資源・マテリアル	躯体+軽鉄+仕上材のデティールを採用している。
LR3 敷地外環境	外部に漏れる照明に着色・点滅・移動等をしない設計としている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。